

MINAMISOMA

南相馬市サポーター 会報誌
magazine for
minamisoma supporter

ミナミソウマガジン
2022 summer

G A Z I N E

南相馬で
馬と暮らす



南相馬で

馬と暮らす

Minamisoma Life with Horse

2019年に創刊した南相馬市サポーター会報誌『ミナミソウマガジン』では、わがまちならではのテーマについて毎回特集してきました。7号となる今回からは、再びこれまでのテーマをなぞりながら、そこにある人の暮らしに注目するシリーズが始まります。リニール初回となる今号の特集は、「馬と暮らす」。

「馬のまち」として知られる南相馬市。1年のうち夏の3日間は「相馬野馬追」が行われ、市内が熱気に包まれる馬にとっても人にとってもハレの日です。しかしそのほかの362日にも、馬と人がともにある豊かな時間が流れています。三代で野馬追に出場する伏見家を訪ね、馬との暮らしを覗かせてもらいました。

目次 Contents

- 2 南相馬で馬と暮らす
- 9 2022相馬野馬追
相馬野馬追、獣医師の仕事
- 10 なんだか気になるみなみそうま
朝日座100歳おめでとう!!
- 11 侍の日常
わたしの推しみやげ





馬の世話から1日が始まる
50年前の「当たり前」

朝4時過ぎ、日の出とともに伏見家の1日が始まる。飼っている馬たちの小屋の掃除から運動や手入れまで3時間ほど。馬との暮らしでは、欠かせない時間だ。主に伏見克夫さん、学さん親子で世話をする。学さんはこの後出勤。「朝飯前」とはいうけれど、毎日となればたやすいことではない。「少し前までは、1人で2頭の馬を1時間ずつ運動させられたけど、さすがに今は息子と1頭ずつ。年には勝てないねえ。だけど、コンディショニングを整えて、今年の野馬追でも神旗争奪戦や競馬に出られたらいいなと思っているよ」と、今年で70歳になる克夫さんは言う。

土日には孫の祐希君も加わり、野馬追が近いとなれば雲雀ヶ原祭場地でトレーニングをする。現地までは、乗馬で移動。南相馬市ならではの情景の背後では、克夫さんの兄、忠さんが軽トラックで追いかけて、公道に落ちた馬ふんを掃除していく。

克夫さん、学さん、小学3年生の祐希君と三世代が野馬追に出場しているが、野馬追に継続するには、家族みんなの協力が不可欠だ。一緒に暮らす家族は他に、忠さん(克夫さんからみて)妻の寿子さん、嫁の綾子さん、祐希君の妹の祥香ちゃんの

7人の大家族。表舞台には立たずとも、綾子さんは馬術の経験があり馬の扱いはお手のもの、祥香ちゃんは馬場の周りで馬と触れ合いながら遊び、忠さんは野馬追出陣のサポートに欠かせない存在。そして、寿子さんは、一家の胃袋を支えている。

いくら「馬のまち」といっても、野馬追に出場し、ましてや日頃から馬と暮らしている家族は次第に少なくなっている。

「私が小学生の頃は、近所に馬や牛がいっぱいいましたよ。馬はいわゆる農耕馬で農業に必要だったんです。でも、耕運機が普及してきて、馬を飼う家も少なくなっていく。私が高校生の頃には、野馬追に出ている馬も大体が競走馬に代わっていましたね」

今伏見家で飼っているサラブレッド2頭、ポニー2頭は、「純粹に楽しみのための馬」。子どもの頃には、サラブレッドに比べて小柄でがっしりとした農耕馬に、鞍もつけずに乗って遊んでいたことを克夫さんは懐かしむ。

帰省は野馬追か、正月か。
節目だった野馬追

50年前の南相馬市内は、舗装された道は少なく、いたるところで馬に乗れたという。その分、馬場は少なく、今はきれいに整備されている雲雀ヶ原

祭場地も草が生い茂っていて、野馬追当日の様子も今とはずいぶん違っていた。「甲冑競馬で走る距離も今の半分以上くらい。観客も少ないし、今とはだいぶ違っていたね。農耕馬は温厚で体も小さいし、走るのもドタドタとした感じで、それはそれでおもしろかった。でも、観客が増えたのは、馬がサラブレッドに変わった頃からかな」

克夫さんの野馬追での初陣は中学3年生の時、「ヤマト」という農耕馬が相棒だった。高校で馬術部に入ってから家ではヤマトを調教して、1メートルの障害物もひょいと飛び越えていたそう。

さて、初陣は飾ったものの、克夫さんは3人兄弟の次男。当時は「家族から1人ずつ出るのが普通だったので、父や兄弟と交代でしか野馬追に出場できなかった」。

「うまくなれば出られると思って、上手な人をお手本にしたり馬と練習を重ねたりして、のめり込んでいったんです。高校生の時には御神旗も取りましたよ」と話す克夫さんは誇らしそう。手柄について話す表情がきらきらと輝くのは、野馬追に出ている「武者」たち皆に共通することだ。

「高校では馬術部に入って、馬の仕事に就いて、今は楽しみのために馬と暮らしている。馬一筋の人生だね」
克夫さんは、JRAに就職。40年余り全国各地を転動しながら、馬の調教

や乗馬の先生として勤務してきた。その間も、可能な限りは野馬追の日程に合わせて帰省。遠いところでは、滋賀県栗東市から8時間以上かけて南相馬市へ。朝方に到着して、そのまま馬に乗って野馬追に出場、ということもあったそう。

今より交通の便も悪かった時代は、里帰りは「野馬追が正月かどちらか」。そのくらい、野馬追の存在は大きいのだ。かつて子どもたちは、野馬追に合わせて服を新調したり、「野馬追小遣い」をもらっていたりした時代もある。

「自分にとって野馬追は一言でいえば、節目かな。だからこの2年は節目がなくて、真っ白になった、そんな感じだった」。

初陣から50年、3年前には孫が初陣を飾り、克夫さん自身はサポート役だった。祖父と孫、出陣は一年交代で約束した矢先のコロナ禍だったのだ。

今年は3年ぶりの通常開催の予定が立って、人も馬もトレーニングの追い込みに余念がない。取材した5月下旬の南相馬市内には、久しぶりの通常開催への期待に満ちた気配が漂っていた。

代々継いでいく、ということ

3年前、『ミナミソウマガジン』別冊の取材では、祐希君の初陣の様子を追った。当時5歳、同じく5歳の

時に初陣で父親が着た衣装を身に付け、2019年の相馬野馬追において一番若い、なんともかわいらしい騎馬武者だった祐希君。初陣で騎乗した「クロ」は穏やかな性格で気が合い、「自分の気持ちが通じて動いてくれると嬉しいし、楽しい」と言う。今年は野馬追には出ないが、学校が休みの日には、ほとんど欠かさず馬に乗る日常を送っている。

克夫さんも「馬が自分の意志に伝えてくれる、自在に動かせることが乗馬の醍醐味」と言う。乗馬に魅せられて、野馬追だけでなく仕事でも馬に関わり続けた理由も、まだ幼い祐希君がただ楽しさを感じて馬と触れ合うのと同じ感覚の延長線上にある。「いやあ、これしかできないからね。人にはおかしੀと思われるかもしれないけれど、馬とずっと一緒にの人生で幸せですよ」

野馬追の出場者も減り、人と馬の関係性が変化するなかで、野馬追を節目として生きる家族の存在は貴重になりつつある。

克夫さんが子どもの頃、祖父や父が野馬追に出る姿を見ていたように、今、祐希君が祖父と父の背中を追いかける。「祐希が一人前に乗れるようになるには、あと5年くらいかかるでしょう。自分が老いるのをなんとか抑えて、3代揃って出られたら嬉しいですね」



ポニーは母の「あかね」とお昼寝中の牛柄の子供「ミルク」



学さんと野馬追に出陣し御神旗をとったサラブレッドの「ハル」



祐希くんの相棒、サラブレッドの「クロ」

伏見家の馬たち

5:00～

起床、馬小屋の掃除、馬の運動、手入れなど。季節によって時間は変動するが3時間くらいかかる



6:30～

放牧して、朝飼（あさがい：朝食のこと）



12:00～

昼飼



16:30～

放牧場にいた馬を集牧、手入れ、夕飼



3年ぶりに
全行事開催予定！

2022 相馬野馬追

一千年以上も連続と続いてきた人と馬の祭りごと、相馬野馬追。コロナ禍で神事のみ開催となった2020年、2021年を経て、待ち望んだ通常開催が間近に迫っています。変わること、変わらないこと、今年の野馬追にはどんなドラマが待っているのでしょうか。

野馬追 NEWS

総大将は、
数え15歳の
相馬言胤さん

前回まで総大将を務めていた相馬行胤（みちたね）さんの長男で、中学2年生の言胤さんが今年の総大将。武士の元服にあたる年齢になることから、元服式を経て初陣を飾ります。父親の行胤さんと同じ歳から出陣しているの、33年ぶりの総大将交代。初々しい武将の姿が、3年ぶりの開催に花を添えます。



〔相馬野馬追開催中の関連行事〕(南相馬市内)

1 雲雀ヶ原祭場地

福島県南相馬市原町区牛来字出口206-1

2 相馬太田神社：

福島県南相馬市原町区中太田字館腰143

3 相馬小高神社：

福島県南相馬市小高区小高字古城13



※相馬野馬追は、南相馬市を中心に相馬市、双葉郡に至る旧相馬中村藩領（二市四町一村）を挙げて開催される国指定重要無形民俗文化財です。

相馬野馬追について
もっと知りたい方は
こちらへ

相馬野馬追執行委員会
公式ページ
<http://soma-nomaoui.jp/>



走る！

馬先生

相馬野馬追、 獣医師の仕事

馬のまち南相馬市に欠かせない獣医師。やはり1年で一番忙しいのは、相馬野馬追前後なのでしょう。相馬野馬追の舞台裏を支える獣医師から見た相馬野馬追とは？

南相馬アニマル
クリニック

佐藤佳芳子さん
さとう・かよこ



神奈川県出身、南相馬市在住3年目。「南相馬アニマルクリニック」に勤務する獣医師。大学在学中に体育の授業で経験した乗馬で馬好きに。犬猫から馬、ときには珍しい動物までを診る現在のクリニックに共感して南相馬市へ。

南相馬市の
馬密度が上昇！
6月から始まる
繁忙期

梅雨時は、変化に弱い馬がお腹を壊したりして、体調を崩しやすい時期。そして、野馬追に出場するために市外からも続々と馬がやってきます。普段より馬の数が増え、6月ごろから野馬追当日までは、馬運車での移動時や運動中のケガなどを診ることが増えます。



隠れた
甲冑競馬の
特等席
馬の救護
テントからの眺め

当日は、雲雀ヶ原祭場地に設置される馬の救護テントにいますが、残念ながら途切れず馬がやってきます。外傷もありますが、多いのが熱中症。猛暑の中、晴れ着をまとって長時間歩いたり走ったりするのは、馬にとってはなかなか過酷なんです。普段なら10リットル単位で点滴するところを、テントでは応急処置しかできないのはもどかしいですが、手早く精一杯の手当をしています。忙しくはありますが、テントは甲冑競馬のコースの横にあるので、迫力あるレースを至近距離で見られるのは役得ですね。



人生初のペットが
馬
この土地の
獣医師だから
できること

馬が身近にいる生活は毎日充実しています。いつか馬を飼いたいと思っていたのですが、こちらに来て早々にその夢も叶いました。わけあって一頭の馬を譲り受けることができ、今は訓練のために宮城県の乗馬クラブに預けています。馬を飼う環境が整っているのがこの土地の魅力。晴れ舞台で、馬も堂々と振る舞えるように訓練されていてとても感じます。



相馬野馬追には多くの侍が出陣し、勇壮な姿を見せます。しかし、1年に3日間のハレの日以外は、侍たちは鎧を脱ぎ、各々の仕事や学業に打ち込み、暮らしているのです。



高3になり、勉強が大変になってきました。かわいいうまい馬は、疲れた時に会いたい。癒してくれる存在です。卒業後の進路は考えている最中ですが、どんな選択をしても7月には南相馬に帰ってきて、野馬追に関わり続けたいと思います。大好きな祖父が、野馬追に出る私の姿を天国から見て笑ってくれています。

文：蒔田志保

ほんだ さとみ
本田 賢美 殿 (17)

役付：騎馬隊



高校生活を送る日常の本田さん(右)

3歳の時に自分で「出たい！」と言ってから、野馬追には毎年出陣しています。兄妹で行列に参加したり、日頃は見られない父の引き締まった様子を「恰好いな」と眺めたり。祖父には、着物の着方を教わりました。家族みんなで一つのことに取り組める特別感が嬉しくて、出たくないと思ったことはありません。

my favorite MIYAGE
at Minamisoma

わたしの
推しみやず



その1

黒潮海苔店 相馬巻

ちょっとした差し入れに、とおきの贈り物に、メイドイン南相馬の一品はいかがでしょう？ 南相馬市で暮らす人々に、おすすめのおみやげと理由を教えてくださいました。

絶妙な味わいのタレがサクッとした揚げ煎に絡みます。パリッとした焼き海苔との相性が抜群でザクザク感がたまらないです。持ち運びもしやすくお土産にぴったり。黒潮海苔店さんは原ノ町駅前にあるので立ち寄りやすく、他にもたくさんのお土産があります。通販も充実しています。



一般社団法人
南相馬観光協会
事務局 長
比護隆之さん

Shop Information

所在地 〒975-0004 福島県南相馬市原町区旭町4丁目5
電話番号 0244-22-2555
オンラインショップ <http://kuroshionoriten.jp/>



なんだか気になる みなみそま

2022 Summer
Minamisoma Topics

朝日座 100歳おめでとう!!



駅前通りから続く道を一本入ると、ふいに現れる朝日座。その佇まいには「人を惹きつける魔力がある」という小畑さん。日々、県内外から朝日座を覗きに訪れる人がやってきます。



舞台裏には、フィルムや映写機など、活動に使っていた小物や機材が今も残っています。

今回は、1923年に原町に開館した「朝日座」が、来年100歳の節目を迎えるのを記念してお祝い。時代を経て役割を変えながらも、まちの人たちに愛されてきた場所の変遷を振り返り、これからのあり方について「朝日座を楽しむ会」の小畑さんに聞きました。

旬のニュース、意外と知らないとおきの話などなど「なんだか気になる」南相馬市の話題をピックアップ！

原町のエンターテインメントの発信地

大正時代に、常設活動写真小屋として開館した「朝日座」。地方回りの芝居が目立つ中で、その目新しさに住民たちは心を躍らせた。

人々は隣接した食堂からとった出前のラーメンをすすったり、畳の枱席で寝ころんだりしながら映画を楽しんだそうです。しかし、テレビやビデオの普及とともに来場者が減少し、1991年には一度、幕を閉じました。

その後、住民の思い出と歴史的価値が詰まった朝日座を、後世に遺していくために「朝日座を楽しむ会」が発足。メンバーがセレクトした映画上映のほか、音楽イベントや寄席、地域サロンなど、さまざまな活動を企画し、朝日座を起点に人の流れを生み出してきました。

朝日座が舞台のドキュメンタリーが制作されたことで、全国に名前が広まったと小畑さんは言います。「朝日座のことになると、みなさん喜んで関わってくれるんです。有形文化財の登録を目指した屋根の改修工事やアカデミー賞作品の上映など、多くの方々のご好意により実現できました。この先も人とのつながりを大事にしながら、朝日座を遺していきたいです」

来年には100周年を記念して、ドキュメンタリーの上映やトークイベントを予定している朝日座。この機会にぜひ、訪れてみてはいかがでしょうか？

年表

1923	芝居小屋・常設活動写真小屋「旭座」開館
1923 7/2	※地元有志12人により、工事費13000円で建設。舞台開きでは、坂東三郎・中村歌十の一座による公演が行われる
9/1	関東大震災
1925	日本でラジオ放送開始
1939	日本初のテレビ公開実験
1941	太平洋戦争
1945	戦時中も数少ない娯楽として映画上映は継続
1952	朝日座に改名し、経営が布川氏個人になる
1953	枱席から椅子席に改修
1960	日本でテレビ放送開始
市民一人当たりの朝日座来場数が5.2回/年になり、最盛期を迎える	
1980年代	レンタルビデオの普及
1991	開館70周年記念として「ニュー・シネマパラダイス」「シザーハンズ」「ホーム・アローン」上映
9/30	閉館
以降、年に数回アニメ映画を上映	
2008	「朝日座を楽しむ会」発足
2011	東日本大震災
6/12	復興無料上映会開催
2013	ドキュメンタリー「ASAHIZA 人間は、どこへ行く」公開
2014	国登録有形文化財(建造物)
2021	朝日座を舞台にした高畑充希主演映画「浜の朝日の嘘つきどもと」全国公開
2023 7/2	祝100歳！

南相馬市のイベント

7月

18[月] 北泉海水浴場海開き(～8/21)

23[土]

24[日] 相馬野馬追

25[月]

3年ぶりの
通常開催!

12年ぶりに復活!
花火やステージイ
ベントで北泉海岸
が賑わいます。

8月

6[土] サマーフェスタ @ 北泉海岸

7[日] 第2回なつかしまつり

13[土] 夏祭り @ 小高

鹿島で開催。盆踊
りや懐かしい遊び
で夏を満喫!

9月

10[土] 南相馬市サポーターツアー(～9/11)

23[金] おだか群青コンサート

25[日] 相馬流れ山全国大会

10月

中旬 おだか浮舟まつり

迫力の競馬が
近くで見れる!

16[日] 第78回 相馬野馬追振興秋季競馬大会

11月

3[木] 交流自治体フェア

まちなかの至る所を
イルミネーションが彩る!

12[土] あかりのファンタジーイルミネーション
in おだか 点灯式(～1/9)

中旬 かしまプロムナード2022

全国から参加
者が集まる、
マラソン大会。

12月

4[日] 野馬追の里健康マラソン大会
(申込期間 8/1～9/15)

1月

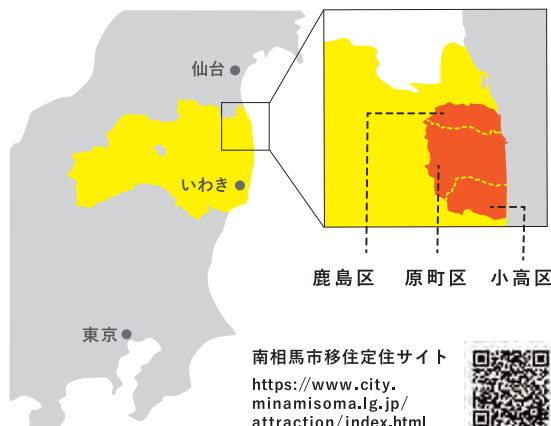
中旬 火伏せ祭り

極寒の中、家々に水
をかけてまわる奇祭!

※感染症拡大の状況等により、イベントが中止・変更になる場合も
ございますので、ご注意ください。

南相馬市とは？

南相馬市は福島県浜通り北部に位置し、温暖で降雪も
少ない暮らしやすい地域です。東京からの距離は292km。
いわき市と宮城県仙台市のほぼ中間にあります。
一千有余年の歴史をもつ国指定重要無形民俗文化財
「相馬野馬追」が根づいている一方、未来への期待ふ
くらむロボット産業の集積や、若手起業家による地
域に根ざしたなりわいづくりなど、新しいことが始
まっているおもしろい地域です。



南相馬市ふるさと応援寄付金サイトはこちら



ミナミソウマガジンとは？

南相馬市の「いま」を伝えるため 2019年1月に創刊した
1号1テーマの特集と連載からなる会報誌です。読者は
南相馬市のサポーター会員。サポーターには、市外に
住んでいて南相馬市と関わりを深めたい方や移住を検討
されている方なら誰
でも無料で登録でき
ます。南相馬市の情
報や暮らしをお伝え
します。

「ミナミソウマガジン」が届く!

『南相馬市サポーター』
登録はこちらから



ミナミソウマガジン

編集後記

南相馬市での暮らしを伝えるリニューアル版
ミナミソウマガジンはお楽しみいただけまし
たでしょうか。今号の特集は南相馬市ならで
はの「馬との暮らし」。ハレの日だけではない、
日常の中にある馬との生活を感じていただけたら
嬉しいです。馬がいるからこそ、さらに
充実する暮らしや深まる家族との絆。そんな
素敵な暮らしが南相馬市にあります。

2022 summer

発行元：南相馬市役所

統括編集長：武田智芳（南相馬市役所）

アートディレクション・デザイン：西山里佳（marutt Inc.）

編集：小野 民

写真：鈴木宇宙、齋藤亮太（marutt Inc.）

制作：

（南相馬市役所）浜口周也、大和田智之、林 紘太郎、吉田亜衣、佐藤遼平

（一般社団法人 南相馬観光協会）比護隆之、星 順子

発行日：2022年7月22日

問い合わせ：南相馬市サポーター事務局（南相馬市役所内）

〒975-8686 福島県南相馬市原町区本町二丁目 27 番地 / TEL：0244-22-2111

<https://www.city.minamisoma.lg.jp/>